

保健だより特別号 命の大切さを学ぶ教室 一井彩子さんの声を聞いて

私たちはテレビなどで事件を見ても、そこまで実感できないけど、被害者の家族の方々や友人の方は深い悲しみがずっと残るんだなと思いました。

いじめをしている人に注意をしたり、相手の気持ちを考えて行動する。

息子さんが被害者になったことの辛さや悲しさを感じました。加害者にならず、助け合いや思いやりをもって行動したい。

被害者の将来を壊した加害者の罪が軽いのはきわめて遺憾。他人事ではない。



講演会を終えて・・・

一井さんのお話を聞いて、びっくりした人、聞いているだけで辛かった人など、事件の壮絶さを感じた人が多いのではないのでしょうか？ 同時に一井さんの勇気には心うたれるものがあったのではと思います。全てはのせられませんが、みんな一人一人がどのような思いを持ったか知っておいてほしいと思います。いま、できることは限られていても、他者への思いやりを意識していくことはできるはずです。

「本当にこんなことあるんだ」「こんなにも残酷なんだ」と感じた。私にできることはこの講演の内容を少しでも広げること。

暴力を振るっている人を見たら止めるしもちろん自分もしない。

「被害者になる可能性はないわけではない。でも加害者には自分の意思があればならない」といわれたことが心に残りました。

身近な人が死んでしまったら自分はどうなるのだろうと考えながら聞いていました。日頃の言動に注意し、相手の立場にたって考えたりして生活したいです。

被害者同士が話し合える会があるのは良いと思った。事件のことを忘れてはいけない。

「自分がされて嫌なことは、相手がされても嫌なんだ」ということを忘れずに生活していきたい。自分にできることがあれば全力で助けてあげたい。

被害にあった子ども達の親たちが、署名活動をして国の法律に新しいことを加えたのがすごいと思いました。これからも自分が加害者にならないように色々考えたいです。

今まで仲の良い人に助けを求められても、直接的な助けを出せないまま離れてしまったため、助けを求められた時や言い出せずに困っているのを見た時は強く協力して助けてたい。

もし私の家族が勝さんと同じ立場だったなら、犯人を絶対に許さないし、事件のことを思い出したくもないと思います。そんな中講演会を開いて、命の尊さを伝えてくださった一井さんには感謝しています。

正直苦しかった。生きられなかった人の分精一杯生きようって思いました。一井さんは思い出すのも辛いはずなのにすごいと思った。一人一人が自分を大切にしていってほしいと思う。

ささいな事ですぐ怒る前に、自分でブレーキをかけたり、嫌なことをすぐに口に出す前に、それは言っているのか、いけないのかを考えて言うことを我慢したりすることで被害者は減っていくと思う。

一井さんから学んだことを家族にも教えてあげたり、今後ニュースなどで暴力事件のことが耳に入った時は、今日のお話を振り返りたい。

一井さんが苦勞して生み育てた子どもが、意味の分からない理由で殺されてしまったのはとても許せなかった。勝さんはトラックの運転手が見つけて下さって、彩子さんにもその事が届いたけど、もし見つけられていなかったら、彩子さんは勝さんが遺体になってかえってきた姿しか知らなかったかも知れない。だから改めて人と人が支え合って、一秒一秒をいきているんだなと思った。

命をおとすことによってたくさんの方が悲しむ。被害者、被害者親族の方々のおさえきれない怒り、加害者への憎しみを感しました。

自分では知っていたつもり、命の大切さが全然違って。命を人の価値観で見るということに初めて気づくことができた。

少年犯罪などで、被害者に対しての不平等な法律やきまりに立ち向かっていっている人たちがいて決してあきらめてはいけなと感じました。

人間は人の命を軽く見ていると感じた。一度しかない人生。自分の思うように楽しく過ごしたい人の思いを破壊する殺人だけにはあいたくないし、加害者ともなりたくないと思った。

自分の親族には殺害や大きな事件で死んだ人はいません。なので正直話を終えた今でも心のどこかで「他人事」と思っている自分がいます。被害者はもちろんその家族まで深いつめ跡を残した本人とその家族について深く考えさせられました。

まだ未成年なのに、加害者や被害者になってしまうなんて一井さんの話を聞くまで考えられなかった。加害者の少年はおそらく環境が悪かったり、精神的な病気を患っている人が多い。だからこそ加害者にならないように少年たちを見守るということはとても納得しました。

本来は加害者を罰し、被害者の無念を晴らすはずの法律が逆に加害者を守ってしまいます。この話を聞いてとても不快でした。私は理不尽が大嫌いです。だからこそ理不尽を少しでも改善しようとする一井さんをととても尊敬します。そして「will」とてもいい言葉です。

常に友達のことを気づかうことが大切だと思う。友達の行動や発言などがいつもとは違った時に、なにかあったんか?とか大丈夫?などと声をかけることも必要だと思う。

心が疲れていると感じた人に声をかけてみることや思いやりをもって相手に接すること、被害者の方の話を受け止め伝えていくことや、日頃から暴力のある(生活)学校にはしないこと。

すごく苦しくなりました。一井さんの話を聞いて、よく母が「生きているだけで幸せ」というのを思い出しました。今は、私はその気持ちが少ししかわからないけど、実際に親になるとそんな気持ちになるのかなと思いました。加害者の家族と会うという決断をした一井さんは言葉では表しにくいけど今ある現実と向き合っていてすごいです。

一井さんのやりきれない気持ちを聞いて加害者は被害者だけでなくその家族、友達も被害にあわせているんだと感じました。命ある限り幸せなことは必ず起こると思うので強く生きてと思いました。

一井さんの話の「周りの人の気持ちを知る」ということが、被害者を増やさないことになり、自分の言動・行動で家族が苦しまないか」ということを考えていけばきっと未成年犯罪はなくなると思います。

加害者の社会復帰とはなんだろうと思った。加害者が少年院を出て、事件ことなど忘れてるように見えたなら被害者は憤りを感じるだろうし、更生にはならないと思う。

主犯に殺したい奴を選べと言われても「僕はそういうことはできない」とずっと言えるということは、本当に自分のことよりも他人のことを大切に思い勇気のある人だと思いました。勇気を出した勝さんはとても人思いな、優しい人だと思いました。

少年院から出てきた加害者(の家族)と被害当事者の関わりがとても大変だということが今回初めてわかりました。また線香をあげたいと言ってきた加害者家族を最初はことわったものの、最終的には家にいった一井さんがすごいと思いました。私は未成年だけれどもし家族が殺されて加害者が来ても、絶対断り続けると思います。

